

## 体外循環を利用し摘出した下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎細胞癌の手術経験

おお の ひろ ふみ こ ばやし なお と  
大 野 博 文 小 林 直 人  
こ うみ つとむ はま もと りゅう いち  
小 海 力 濱 本 隆 一

キーワード：腎細胞癌，下大静脈腫瘍塞栓，体外循環

### 要 旨

腎細胞癌は病態が進行すると腎静脈，下大静脈へと腫瘍塞栓が伸展する特徴がある。これらの腫瘍塞栓が横隔膜付近や右心房内まで伸展した3症例に対し手術を行った。非常に難易度の高い手術であり従来予後不良とされてきたが，関係診療科，コメディカルの協力により，体外循環を利用しながら腫瘍の摘出を行った。症例数が少ないものの術後経過は良好であり performance status（以下 PS と略す）の良い患者であれば，今後も積極的に手術治療を行っていきたいと考えている。

### はじめに

近年，画像診断の進歩により腎細胞癌も早期に診断される機会が多くなったものの，依然として古典的三徴（肉眼的血尿，腹部腫瘍，腰背部痛）で発見される進行癌も散見される。腎細胞癌には化学療法や放射線治療が無効のため，患者の PS が許す限り原発巣の積極的な摘除が推奨されている<sup>1)</sup>。しかしながら下大静脈の高位まで腫瘍塞栓が伸展した症例では手術が非常に困難であり，術前周術期を含めた管理には病院全体の総合力が必要になってくる。今回われわれは体外循環を利用

し下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎細胞癌の手術を経験したので報告する。

### 症 例

（症例1）58歳女性

主訴：左腰部痛

既往歴：糖尿病

現病歴：2006年12月5日当院健診による超音波検査にて下大静脈腫瘍塞栓を伴う左腎腫瘍を指摘され，当科紹介となった。

画像所見：CTにて腫瘍塞栓は肝静脈流入部付近まで認められ，左腎細胞癌 T3bN0M0と診断した（図1）。

手術所見：2006年12月21日部分体外循環下に左腎および腫瘍塞栓摘出術を施行した。まず両側肋骨

Hirofumi OHNO et al.

松江赤十字病院泌尿器科

連絡先：〒690-8506 松江市母衣町200番地